



プレゼンテーションの実際 ～広島市立大学附属図書館の場合～

広島市立大学附属図書館 申請真弓

平成21年度学術情報リテラシー教育担当者研修
2009年10月22日

本日の内容

1. モデル発表の前に
2. モデル発表
3. 本学の紹介
4. 本学の情報リテラシー教育の状況
5. 本学の情報リテラシー教育の状況(学部別)
 - ① 芸術学部
 - ② 情報科学部
 - ③ 国際学部
6. オプションガイダンス
7. 課題

1 モデル発表の前に

- **対象：芸術学研究科の学生**
- **時期：6月下旬～7月初旬**
(修了作品の制作や論文作成を意識し始める頃)
- **対象のバックグラウンド：**
 - 時間がない(作品制作、アルバイト)
 - 修了時には初めて卒業論文のようなものを書かなければならない。

1 モデル発表の前に

ガイダンス開催会場



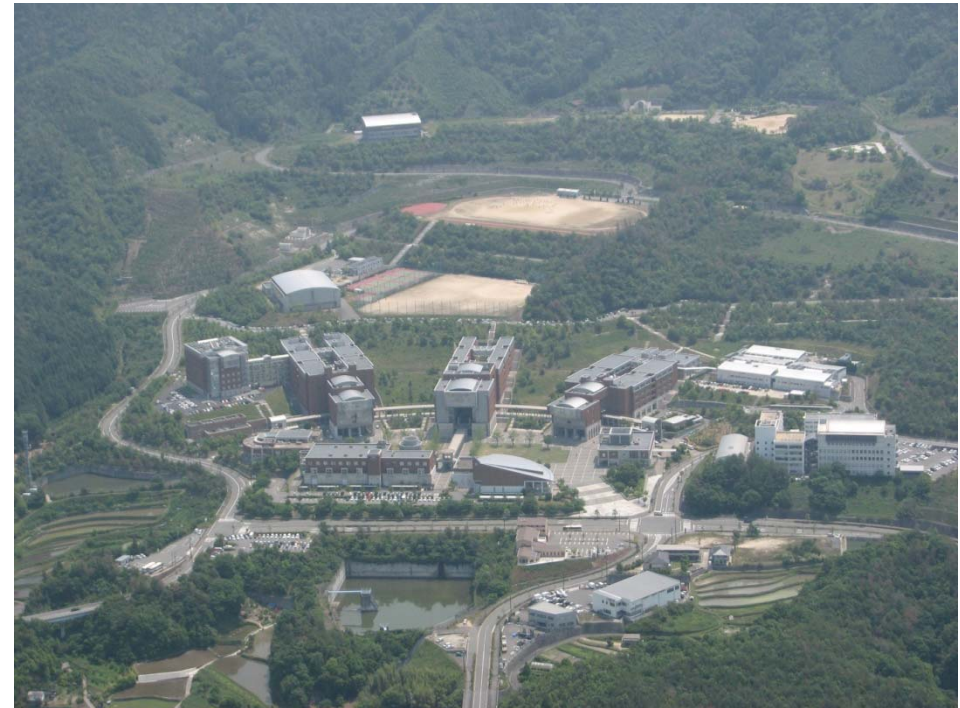
2 モデル発表

- 本日は60分のガイダンスを約30分で行います。そのため、内容を省略して行いますのでご了承ください。



3 広島市立大学の紹介

- 「国際平和文化都市」をうたう広島市が「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」として設置した公立大学。
- 1994年（平成6年）に開学
- 広島市中心部からバスで約15分。中心部へのアクセスのよさと緑豊かな自然の環境を兼ね備えた大学。



3 広島市立大学の紹介

- 3学部3研究科で構成され、学生数は約1800人
 - 芸術学部、情報科学部、国際学部
 - 芸術学研究科、情報科学研究科、国際学研究科
- 図書館の情報リテラシー教育は平成19年から開始



4 本学の情報リテラシー教育の状況

- 入学時のオリエンテーションで図書館ツアーを開催
- 全学部の1年生に対し、基礎的な図書館ガイダンスを授業の1コマを使って開催

芸術学部	平成21年度～
情報科学部	平成20年度～
国際学部	平成19年度～

- 国際学部は2年次にもガイダンスを開催
- 各種データベース講習会を年に数回実施

4 本学の情報リテラシー教育の状況

■ 開催時期

4月	5月	6月	7月	8月 ~9月	10月	11月	12月	1月 ~3月
芸術学部一年生 オリエンテーション(図書館ツアー)	国際学部一年生		芸術学研究科		国際学部二年生 情報科学部一年生			
		データベース ガイダンス				データベース ガイダンス		

4 本学の情報リテラシー教育の状況

■ 基礎的なガイダンス

- きっかけは国際学部教員の要望
「初年次教育の1コマに図書館ガイダンスを入れてほしい」
- 内容について初年次教育(基礎演習)WGの先生方と協議。同時に学生の実態を把握するためミニガイダンス「今さら聞けない図書館の常識」を開催。
- 教員の前で模擬ガイダンスを実施
- ガイダンス後、職員と学生の距離が縮まり、レファレンスが増え、レファレンスカウンターを設置。
- 芸術学部は院生へのガイダンスの要望が教員からあった。

その後図書館側からの働きかけで全学部で実施するようになる

4 本学の情報リテラシー教育の状況

- 基礎的なガイダンス:内容
 - 一番伝えたいこと
 - 「図書館職員に何でもお尋ねください」
 - 基本的な利用案内
 - 開館日開館時間、貸出期間貸出日数、館内の配置、
図書の並び方など
 - 図書館で何が出来るかということ
 - 眠くならない工夫
 - 味付けは各学部の特徴

5 本学の情報リテラシー教育の状況(学部別)

① 芸術学部

- 学部生は1学年約80人を美術学科とデザイン工芸学科に分けて開催。開催時期は4月下旬。
- ガイダンス(1コマ90分)の内容
 - 図書館の必要性
 - 利用案内
 - OPAC実習及び実際の貸出作業
 - その他のツールの紹介
- 芸術学部ガイダンスのポイント:
 - 外国人名のOPAC検索方法について原綴りの重要性を説明する。

5 本学の情報リテラシー教育の状況(学部別)

① 芸術学部

■ 学生の反応

- 実習が好評である。
- パソコンの文字入力が得意ではない学生がいる。
ex. カラヴァッジョ
- 図書館利用テキストのようなものを作ってほしいという要望がある。



5 本学の情報リテラシー教育の状況(学部別)

② 情報科学部

- 1学年約220人の大講義。「情報科学序説」という各専攻のオムニバス形式の講義の1コマを使わせてもらっている。開催時期は10月中旬。
- ガイダンス(1コマ約60分)の内容
 - 学術情報源としてのインターネットの長所と短所
 - 図書館の必要性
 - OPAC、その他CiNiiなどの検索ツールの紹介
 - 利用案内
- 情報科学部ガイダンスのポイント:
大講義室で開催するため、実習ができない。課題を提出させることで一度は検索ツールを使い、図書館に来なければならないようにしている。

5 本学の情報リテラシー教育の状況(学部別)

② 情報科学部

■ 学生の反応

- 図書館の幅広い検索方法を知ることができてよかったという学生が大半。
- 課題は宝探しのようで楽しめたという声もあり、概ね好評である。
- 効率のよさにこだわる学生が多い。
ex. 検索方法、書架の並び方
- 前期に受講したかったという声がある。
- ブックトークをしてほしいという意見もあった。



5 本学の情報リテラシー教育の状況(学部別)

③ 国際学部

- 1学部約100人を2回に分けて開催。
 - 1年生:「基礎演習」、開催時期5月上旬
 - 2年生:「発展演習」、開催時期10月上旬
- 1年次のガイダンス内容は芸術学部とほぼ同じ
- 2年次のガイダンスの内容(1コマ90分)
 - レポート課題のための資料収集法
 - 各種データベース実習
- 国際学部ガイダンスのポイント:
最も図書館を必要とする学部なので、各ツールの説明を丁寧に行う。

5 本学の情報リテラシー教育の状況(学部別)

③ 国際学部

■ 学生の反応

- 実習が好評である。
- 内容について「分かりやすい」と答えた学生がいる一方で「内容が多すぎて混乱する」と答えた学生がいる。
- 2年次のガイダンスは、受講前は1年次にも受講したのになぜ2年次にもするのかと思っていた学生が、概ね満足する内容になっている。
- 1年次にはOPACを理解するので精一杯のようである。



6 オプションガイダンス

- 各テーマを短時間で説明するミニガイダンスを図書館で開催。平成20年に試行。
15テーマ、開催数：37回、参加者：129名
(1回あたり平均3～4名)



- 今年度は教員によるオーダーメイド式に変えて後期に試行する。

6 オプションガイダンス

- 開催テーマ(予定)
 - 図書館サービス
 - 図書を探す
 - 雑誌記事を探す
 - 新聞記事を探す
 - テーマ別ガイダンス
 - レポートの書き方
 - 就職活動に役立つ情報収集
 - 購入できる図書の探し方 など

7 課題

■ 評価

ガイダンス後のアンケート及び報告書作成に留まり、きちんとした評価を行っていない。

■ 内容

一度のガイダンスの内容を各ツールの紹介にとどめるべきか、少ないが確実に修得できるものにすべきか迷っている。

■ 回数

1年次の一度のガイダンスでは本格的に図書館を活用する必要がある3～4年次には忘れてしまっている。

■ 職員体制

多人数を担当にすべきか、少数精鋭でいくべきか。

ご清聴、ありがとうございました。

